

# 『栄養教育論 第2版』 正誤表・更新情報 (2024.1.15)

(追加修正・更新：2024.5.14<p.1 追記>，2024.9.3<p.2 追記>，2025.1.27<p.3 追記>)

Visual 栄養学テキスト『栄養教育論 第2版』に、誤りがありました。また、発行後、いくつかの情報が更新されましたので、あわせて、下記のとおり、訂正・更新いたします。右記の二次元バーコードからもアクセスでき、データはダウンロード可能です。



p.v (はじめに) 本文：上から 17 行目

更新後：その内容は、栄養教育の歴史をまとめた年表、

更新前：その内容は、現在（東京栄養サミット 2021）までの栄養教育の歴史をまとめた年表、

p.ix (シラバス)

更新後：以下参照（赤字の追加）

14	組織づくり・地域づくりへの展開	<ul style="list-style-type: none"><li>●食環境整備が食行動の変容に必要であることを理解する</li><li>●食物へのアクセスと情報へのアクセスについて説明できる</li><li>●集団・組織・地域にかかわる理論と概念を説明できる</li><li>●行動経済学で提唱されているナッジについて説明できる</li><li>●集団・組織・地域にかかわる理論と概念やナッジを食行動の変容に応用できる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●食環境整備</li><li>●集団・組織・地域にかかわる理論・概念<ul style="list-style-type: none"><li>●グループダイナミクス</li><li>●セルフヘルプグループ</li><li>●エンパワメント</li><li>●コミュニティオーガニゼーション</li><li>●ソーシャル・キャピタル</li><li>●イノベーション普及理論</li></ul></li><li>●行動経済学</li></ul>	5
15				

●ナッジ

p.5 本文：下から 6 行目

更新後：2021 年に、介護報酬が改訂され

更新前：介護報酬が改訂され

p.5 本文：下から 5 行目

更新後：2021 年の東京 2020 オリンピック

更新前：東京 2020 オリンピック

【追加修正 (2024.5.14)】

p.5 本文：上から 13 行目

更新後：2005 年に食育基本法が公布され、食育推進基本計画に基づき、国を挙げて食育が行われるようになった。

更新前：2005 年に食育基本法が公布され、国・都道府県・市町村は食育基本計画を策定し、国を挙げて食育が行われるようになった。

\*修正理由：食育基本法では、国が食育推進基本計画を策定、都道府県・市町村が食育推進計画を策定するとされており、「食育基本計画」という名称が不正確であったため。

p.5 本文：下から 3 行目

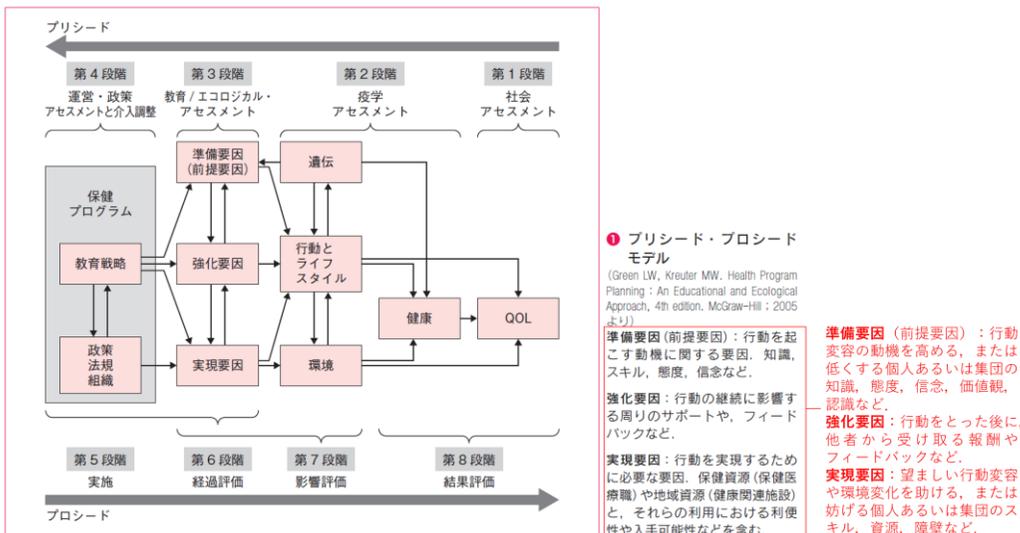
更新後：2021 年の同大会開催に合わせ

更新前：同大会開催に合わせ

【追加修正 (2024.9.3)】

p.15 図①：注釈

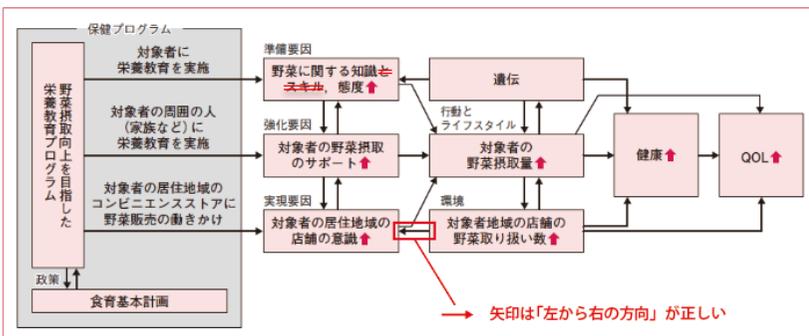
正：以下参照 (赤字の修正)



【追加修正 (2024.9.3)】

p.15 図②：図内の文字，矢印

正：以下参照 (赤字の修正)



② プリシード・プロシードモデルを用いた栄養教育プログラムの例  
 ↑：向上，増加を意味する

p. 30 表①：下から 2 行目

正：環境目標の達成に向けた

誤：環境目標の達成に向けた

【追加更新 (2025.1.27)】

p. 38 表⑥：表内の文字

正：以下参照 (赤字に更新)

⑥ 刺激-反応理論に基づいた行動変容技法

行動変容技法	内容	例
刺激統制	刺激を抑制することにより、食行動(反応)を管理すること	お菓子を食卓に置かない/コンビニエンスストアに寄らない
	刺激を促進することにより、望ましい食行動をとらせること	野菜摂取を促すために、冷蔵庫にいつも野菜スティックを入れる
反応妨害・拮抗	反応として起こる行動を抑えること	お菓子を食べたくなったら、5分間待つ
行動置換	抑えたい行動を別の行動に置き換えること	休憩時間に、間食をとる代わりに散歩をする
オペラント強化	望ましい結果を増やして行動を促進したり、望ましくない結果を増やして行動を抑制したりすること	給食を残さずに食べたら、シールがもらえる

(たとえば、報酬)  
(たとえば、罰)

p.40 サイドノート 豆知識「セルフモニタリング」：上から3行目

正：記録することを

誤：記憶することを

p.45 表⑬：「認知的プロセス」の上から3列目

正：環境への再評価

誤：環境再評価

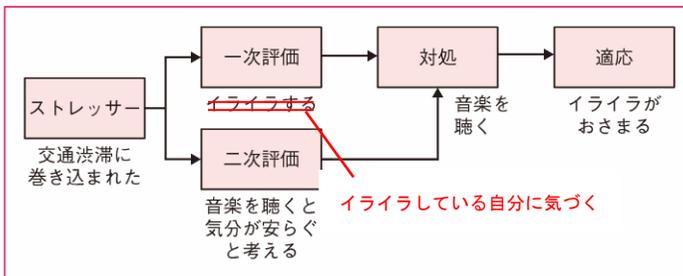
p.45 図⑬：図内の文字

正：感情的体験

誤：感情的経験

p.49 図⑬：図内の文字

正：以下参照 (赤字の修正)



⑬ ストレッサーから適応に至るプロセス

p.62 Column：タイトル，左段の上から3行目・10行目

更新後：食環境戦略ニシアチブ

更新前：フードデザート

p.63 Column

更新後：以下参照（差替）

健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ（略称）

厚生労働省は、「自然に健康になれる持続可能な食環境づくりの推進に向けた検討会」報告書（2021年6月公表）をふまえ、2022年3月に「健康的で持続可能な食環境づくりのための戦略的イニシアチブ」（正式名称）を立ち上げた。本イニシアチブは、報告書で重要課題としてあげられた食塩の過剰摂取、若年女性のやせ、経済格差に伴う栄養格差の是正を中心に、環境面に配慮した取組を推奨している。本イニシアチブの目的に賛同する事業者は、イニシアチブに参画し、課題解決に向けた行動目標を設定、公開し、目標達成に向けた取り組みを行う。産学官等連携によるイニシアチブは、食環境整備として注目されている。2024年度から始まる健康日本21（第三次）においても、栄養・食生活に関連する目標の1つに、「健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ」の推進が設定されている（評価指標は、「健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ」に登録されている都道府県数）。

p.66 サイドノート MEMO「日本におけるソーシャルキャピタル」

更新後：以下参照（差替）

ソーシャルキャピタルは、2013年度に始まった健康日本21（第二次）において、「健康を支え、守るための社会環境整備」の中で、居住地域での助け合いといった地域のつながりの強化の目標達成に向けて必要な概念として登場した。2012年に一部改正された「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」においても、地域保健対策の推進にあたっては、地域のソーシャルキャピタルを活用し、住民による共助への支援を推進することが加わった。このようにソーシャルキャピタルの醸成がさまざまな分野で求められている。

p. 67 表⑥：表内の文字

正：以下参照（赤字の修正）

⑥ イノベーションの普及速度に影響する要因

要因	意味	例（減塩商品の普及）
相対的優位性 （比較優位性）	競合する相手より優れている	ほかの商品より食塩（相当量）が少ない
適合性	対象者のニーズに合っている	食塩の取り過ぎに注意している
複雑性 （わかりやすさ）	実施が複雑でない	この商品を使えば減塩できる
試用可能性	試すことができる	少量パックで購入できる
観察可能性 （可観測性）	普及が観察できる	減塩商品の売れ上げが公開されている

を気に

がたくさん店頭に並んでいる



p.87 表：上から3列目（テーマの例）の下から1行目

更新後：ネットショッピングで使えるポイントをプレゼント

更新前：商品券がプレゼントされる

p.90 Mini Lecture：表<sup>1</sup>の上から2列目（ステップ2）の上5行目

更新後：

②脂質異常

空腹時中性脂肪 150mg/dL 以上（やむを得ない場合は随時中性脂肪 175 mg/dL 以上）または HDL-C 40 mg/dL 未満

更新前：

②脂質異常

中性脂肪 150 mg/dL 以上または HDL 40 mg/dL 未満

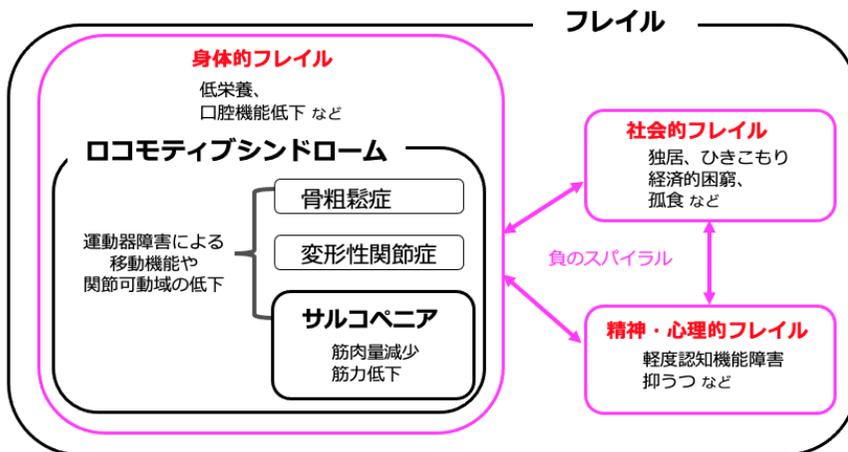
p.90 Mini Lecture：表<sup>1</sup> 出典

更新後：（厚生労働省、「標準的な健診・保健指導プログラム（令和6年度版）」をもとに作成）

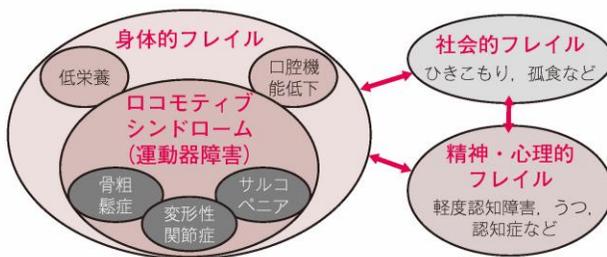
更新前：（厚生労働省、「標準的な健診・保健指導プログラム（平成30年度版）」をもとに作成）

p.91 Mini Lecture：図

更新後：以下参照



更新前：以下参照



p.129 ポップ (POP) の例

更新後：以下参照 (差替：食生活指針, 成長曲線)

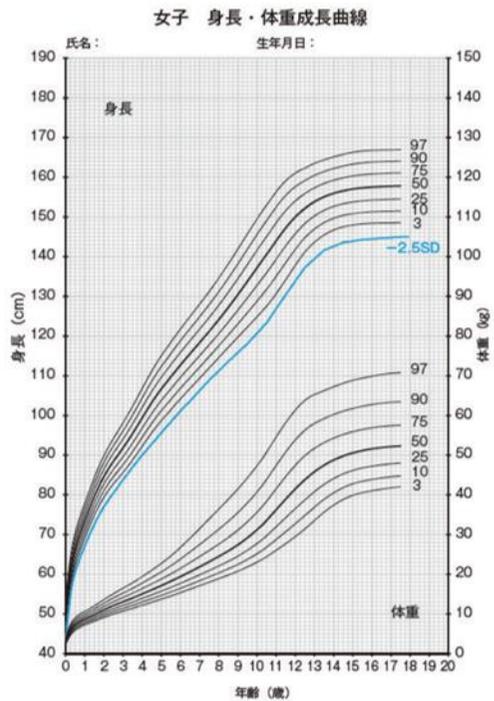
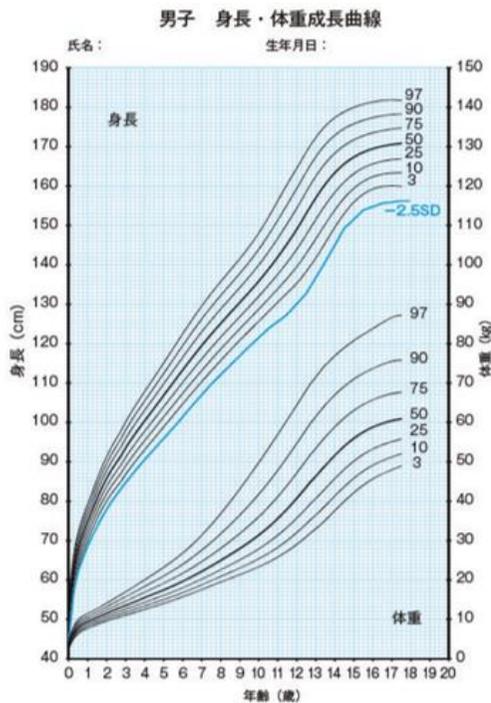
\*新しい情報ではないものの, 学習に必要な資料として追加

■食生活指針

- 食事を楽しみましょう。
- 1日の食事のリズムから, 健やかな生活リズムを。
- 適度な運動とバランスのよい食事で, 適正体重の維持を。
- 主食, 主菜, 副菜を基本に, 食事のバランスを。
- ごはんなどの穀類をしっかりと。
- 野菜・果物, 牛乳・乳製品, 豆類, 魚なども組み合わせて。
- 食塩は控えめに, 脂肪は質と量を考えて。
- 日本の食文化や地域の産物を活かし, 郷土の味の継承を。
- 食料資源を大切に, 無駄や廃棄の少ない食生活を。
- 「食」に関する理解を深め, 食生活を見直してみましょう。

(文部省, 厚生省, 農林水産省. 平成 12 年 3 月 23 日付 (平成 28 年 6 月一部改正))

■成長曲線



(文部科学省. 食に関する指導の手引—第二次改訂版— (平成 31 年 3 月).  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFile/afieldfile/2019/04/19/1293002\\_9\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFile/afieldfile/2019/04/19/1293002_9_1.pdf) より)

